

千葉県における産業医不足解消のための有効な方策の樹立

研究代表者 千葉産業保健総合支援センター 所 長 能川 浩二
 研究分担者 千葉産業保健総合支援センター 産業保健相談員 諏訪園 靖
 共同研究者 公益社団法人千葉県医師会 産業保健担当理事 深沢 規夫
 公益社団法人千葉県医師会 産業保健副担当理事 松岡かおり
 千葉大学大学院環境労働衛生学 助 教 能川 和浩

1 はじめに

千葉県においては産業医の不足が数年前から指摘され、千葉産業保健総合支援センターの地域産業保健事業の実施に必要な登録産業医の推薦を千葉県下9地域のセンター長に依頼しても、全ての地域から登録産業医を推薦することが難しいとの意見が寄せられており、事業を続けるうえで大きな困難に直面している。その背景には千葉県における医師不足の深刻さがある。千葉県の人口10万人当たりの医師数は、平成26年172.7人、全国平均は226.5人で全国45位である。千葉県は京葉工業地帯を抱え、事業所数は約20万事業所、50人以上の事業所数は約5700事業所である。急速な高齢化により医師不足は益々激しくなるとされている。このような背景の下では、医師は産業医活動に意欲を持つことが困難となって来ている。産業医に興味を有する産業医研修会受講の医師にどのような環境であれば産業医として活動が出来るかを聞き、医師が産業医活動に参加する意欲を持てる要因を明らかにして、その環境を整備することは千葉県においては急務である。産業医として活動する意欲を持つための要因を医師側から明らかにし、この要因を基に産業医不足の解消を図るための提言を樹立することを目的として調査を実施した。

2 対象と調査方法

調査対象者は、千葉県医師会認定産業医研修会に参加した医師全員を対象とした。調査期間は2015年5月―12月で、開催された研修会は6回である。調査方法は質問紙による調査を実施した。質問紙を参加者が受付に来た際に手渡し、研修会が始まる前に調査の趣旨を説明した。休憩時間に記入すること、終了時に受付に提出するように要請した。

3 結果

①参加者総数は816人、回答者総数は671人、回答率は82.2%であった。

②産業医として活動している事業所数は「0事業所」との回答が最も多く、事業所数が増すにつれて産業医数も減少していた。

表1. 産業医として活動している事業所数

	人数	
0事業所	276	42.9%
1事業所	162	25.2%
2事業所	95	14.8%
3事業所	36	5.6%
4事業所	24	3.7%
5事業所	20	3.1%
6事業所	9	1.4%
7事業所	3	0.5%
8事業所以上	17	2.6%
その他	1	0.2%
合計	643	100%

③産業医報酬の月額額は1―3万円が最多である。

表2 現在の産業医報酬の月額について(複数回答可)

	人数 (359) 人中	
なし	59	16.4%
1―3万円	107	29.8%
4万円	55	15.3%
5万円	95	26.5%
6万円	45	12.5%
7万円	28	7.8%
8万円	10	2.8%
9―10万円	16	4.5%
11万円以上	44	12.3%

④モデル事業所での適切な報酬月額は5～6万円が最多である。

表3 従業員数 50～100人、有害業務のない事業所での適切な産業医報酬月額

	人数	
1万円未満	2	0.4%
1～2万円	8	1.4%
2～3万円	24	4.3%
3～4万円	50	8.9%
4～5万円	97	17.3%
5～6万円	180	32.1%
6～7万円	47	8.4%
7～8万円	67	12.0%
8万円以上	85	15.2%
合計	560	100.0%

⑤産業医活動困難の理由は時間がないが最多である。

表4 産業医活動に困難を感じる理由（複数回答可）

	人数（248）人中	
時間がない	135	54.4%
業務量が多い	47	19.0%
事業所からの要求が多すぎる	41	16.5%
事業所の対応がだめ	50	20.2%
報酬が低すぎる	35	14.1%
やりがいを感じない	25	10.1%
知識が不足	58	23.4%
困った時の相談機関がない	51	20.6%
トラブルへの懸念	49	19.8%
その他	13	5.2%

⑥産業医活動継続の理由は知っている事業所からの依頼のためが46%と最多である。

表5 産業医活動継続の理由（複数回答可）

	人数（359）人中	
報酬	62	17.3%
産業保健への興味	98	27.3%
医師としての義務	88	24.5%
医師会の依頼のため	44	12.3%
知っている事業所からの依頼のため	165	46.0%
病院・医院の経営的観点から	56	15.6%
その他	29	8.1%

⑦今後の産業医活動を継続するための必要事項では産業医の支援体制の充実53%、相談できる機関等の整備

が40%である。

表6 今後の産業医活動継続のために必要な事項（複数回答可）

	人数（595）人中	
報酬の増額	198	33.3%
事業所の産業医への対応の改善	181	30.4%
産業医への支援体制の充実	317	53.3%
相談できる機関等の整備	238	40.0%
研修の機会の増加	148	24.9%
その他	26	4.4%

⑧千葉産業保健総合支援センターについて知らない産業医は59%である。

表7 千葉産業保健総合支援センターについて

	人数	
よく知っている	52	8.1%
ある程度知っている	214	33.3%
よく知らない	241	37.5%
全く知らない	136	21.2%
合計	643	100.0%

4. 考察

千葉県における産業医不足を解消する対策として以下の事が挙げられる。

①医師会所属の産業医でも4割が産業医活動をしていないことから、産業医活動をしていない産業医に活動に参加してもらえるような方策を確立することが基本的対策である。

②産業医活動への参加を促進するためには、業務量の適正化、事業所に近い産業医の紹介、産業医への支援体制の充実（研修機会の増加、困った時の相談機関の周知）、事業所の産業医への対応の適正化、適正な報酬の確保が必要である。

③産業医活動の意義について医師、産業医、企業、労働者に対して継続的に教育を行い、産業保健への認識を高めること。

④千葉産業保健総合支援センターについて6割の産業医がよく知らないことから、支援センターの活動内容を医師、産業医に周知を徹底すること。

5 研究成果の活用

医師会等の関係機関に周知し、連携を強化する。千葉産業保健総合支援センターの活動内容を見直す。